

チャレンジラダー	ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
経験年数目安	10～				
	9				
	8				
	7				
	6				
	5				
チーム医療	看護の役割・責任 病院組織、多職種との協働の中にある看護職の役割・責任 他職種の役割・責任、立場、考え方の理解 他職種との積極的なコミュニケーション		それぞれの職種の専門性に応じた役割分担の促進・調整力 適切なリーダーシップとフォローアップの発揮		
	個人の業務(タスク)管理		部署の業務(タスク・フロー)管理		医療・介護医療チームの業務フロー管理
社会組織人	社会人としての基礎(挨拶・報告・相談)	意図的に訊く力	発言する責任・発言力	意見の交換	自律・意見の集約・調整・交渉力
	疑問・問題提起		問題の把握、解決のプロセス	問題の的確な把握、プロセスの評価	結果・成果への責任
JCHOのミッションに基づく統合的な目標	・指導の下で安全な看護ができる。 ・組織の一員であることを自覚し、施設を利用する全ての入、協働する全ての仲間丁寧な対応ができる。	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる。	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に参画できる。	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる。	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる。 ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる。
知識の体系化		○論理的思考 ○研究的視点	(仮説思考)	(戦略思考・定量分析)	
人間関係の構築	○多職種連携・チーム医療の視点	○地域包括ケアの視点			
重点を置く教育項目		○プレゼンテーション			
専門的スキルの習得	○アセスメントに役立つ疾病学(糖尿病・認知症等) ○医療安全・感染管理		○教育・実習指導		
レベル毎の定義	JCHO及び自施設の理念と使命を理解し、組織の一員としての自覚を持って行動する	組織の一員としての役割を理解し、所属部署の目標を意識して行動する	所属部署の目標達成に向けて主体的に実践する	自施設の目標達成に向けて主体的に実践する	自施設の目標達成に向けて組織改革に必要な建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する
【レベル毎の目標】	□地域社会における自施設の役割・機能を理解する □自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける □組織が示す収益向上と費用削減のための具体的な取組みへ協力をする	□地域包括ケアシステムの概要を理解する □地域医療及び地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげる □看護チーム内での役割を遂行する □業務管理を自立して行い、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	□地域医療及び地域包括ケアのチームの一員として、地域の人々の生活上のニーズを把握し、積極的に問題解決に参画する □日々の看護業務におけるリーダーとしての役割を遂行する □自部署に関連する診療報酬制度等を理解し、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	□地域住民の多様なニーズを把握し多職種間と統合したケアを主体的に提供する □看護チームや委員会等のリーダーとしてリーダーシップを発揮する □保健医療福祉の動向をふまえ、組織が示す収益向上と費用削減のための取り組みの必要性を理解し、主体的に実践する	□地域住民の多様なニーズを把握し、地域住民の療養生活を支えるため、関連する施設や多職種間と統合したケアを提供できるようリーダーシップを発揮する □専門性を発揮し、看護チームの管理・教育的役割モデルとして行動する □保健医療福祉の動向をふまえ、組織の収益向上と費用削減のための建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する
倫理実践能力	看護提供に際して守られるべき価値・義務(1～6条) ①看護活動は法規制ガイドライン等の下で実施されていることが理解できる。 ②看護専門職としての自覚と責任ある行動をとることができる。 ③倫理的問題に気づき相談できる。	①倫理綱領を理解し、患者・家族の思いを尊重した行動をとることができる。 ②規律を守り、自律した行動をとることができる。	①患者・家族の価値観を理解し、倫理的問題を明確に検討できる。	①医療チームの一員として患者・家族の倫理的問題を把握し、倫理調整に向け意見することができる。	①医療チームの一員として患者・家族の倫理的問題を把握し、倫理調整に向けメンバーに指導的に関わることができる。
	個人特性と組織的取り組み(12～15条) ①社会人・組織人としてのルールを身につけ、組織の一員として行動できる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができる。 ③定期的に健康診断を受け、自己の体調管理ができる。	①社会の動向・医療情報に関心をもち、研修に参加できる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができお互いに指摘し合える。 ③定期的に健康診断を受け、自己の体調管理ができる。	①社会の動向・医療情報に関心をもち、得た知見をチーム内で共有できる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができチームメンバーに指導できる。 ③定期的に健康診断を受け、自己の体調管理ができる。	①社会の動向・医療情報に関心をもち、得た知見を他職種間で共有できる。 ②定期的に健康診断を受け、自己の体調管理ができる。	①社会の動向・医療情報に関して得た情報を臨床に役立てることができる。 ②定期的に健康診断を受け、自己の体調管理ができる。

組織的役割遂行能力	目標管理	①組織の一員として、自施設および看護部の理念・方針、所属部署の目標を知っている。 ②自施設における地域包括ケアシステムの概要がわかる。	①組織の一員として、自施設の地域包括ケアシステムについて理解できる。 ②組織の一員としての自身の役割を理解し、所属部署運営目標の達成に向けて主体的に取り組むことができる。	① 組織の一員として地域包括ケアシステムについて理解し、自部署運営目標に基づいて、チームの活動計画を遂行できる。 ②部署の係や委員会活動等で、部署の問題・課題を明確にすることができる。 ③自分が担う役割の範囲でリーダーシップを発揮することができる。	① 組織の一員として地域包括ケアシステムにおける自部署の役割を理解し、自部署運営目標に基づいて他職種と協働し部署の活動計画を遂行できる。 ②委員会・院内チーム活動に課題を持って参加し、建設的な意見を述べることができる。 ③自分が担う役割の範囲でリーダーシップを発揮することができる。	①患者・家族の多様なニーズを理解し、当院の地域包括ケアシステムを効率的に実践する。 ②自施設や看護部の運営目標に基づいて活動計画を遂行できる。 ③チームの看護業務内容をデータとして示すことができる。 ④委員会・院内チーム活動に所属部署を代表して発言し、結果報告ができる。 ⑤自分が担う役割の範囲でリーダーシップを発揮することができる。	
	安全管理	総合	①医療・看護における安全を理解できる。 ②指導の下必要性を判断し、報告・連絡・相談ができる。 ③指導の下インシデント・アクシデント内容の把握・再発防止行動がとれる。	①医療安全マニュアルに基づき、安全に留意した行動がとれる。 ②業務上必要なことを適切な相手へ報告・連絡・相談ができる。 ③インシデント・アクシデント発生時の対応及び報告が適切に行える。	①予見に基づいた事故防止行動がとれメンバーに指導できる。 ②業務上必要なことを適切な相手へ報告・連絡・相談および提言ができる。 ③インシデント・アクシデント内容の把握・分析と再発防止行動がとれる。	①適時、業務上必要なことを事実に基づいて適切な相手に、報告・連絡・相談できる。 ②委員会・院内チーム活動に課題を持って参加し、建設的な意見を述べることができる。 ③自分が担う役割の範囲でリーダーシップを発揮することができる。	①安全かつ快適な療養環境の整備・提供について考え、上司に提言できる。 ②医療安全対策マニュアルに沿って事故発生時に初期対応ができる。
		情報	①情報管理体制について理解し、基準手順を遵守した行動ができる。(記録・PC・パスワード・守秘義務・SNS等)	①情報管理体制について理解し、基準手順を遵守した行動ができる。(記録・PC・パスワード・守秘義務・SNS等)	①情報管理体制を理解し、状況を判断した行動がとれる。	①自部署の情報管理について問題を提起できる。	①自施設の情報管理に関する問題解決に向けた対策を立案し実施できる。
		感染	①マニュアルに基づき、感染防止対策の実施ができる。	①マニュアルに基づき患者に応じた感染防止対策が実施できる。	①感染防止対策の実施及びメンバーへの指導ができる。	①自部署の感染防止対策の実施及び改善への提言ができる。	①自施設の感染発生件数の把握、分析結果に基づき自部署の改善策の実施とスタッフ指導ができる。
		防災	①緊急コール(火災時・ホワイトコード)を理解し、必要時にコールができる。 ②災害発生時の患者・職員的安全確保・緊急連絡方法を知っている。(消火設備・避難経路)	①災害発生時の初期行動がとれる。 ②日々の防災チェックができる。 ③防災訓練に参加できる。	①災害訓練に参加し、部署の特殊性を考え役割を遂行できる。	①災害発生時の患者・職員的安全確保と応援体制についてリーダーシップを発揮できる。 ②災害に備えた所属部署の問題について提起できる。	①防災マニュアルに基づいた役割遂行とスタッフ指導ができる。 ②防災訓練を実施・評価している。 ③非常時に備えて緊急連絡網や安否確認ができる。
	経済	①指導のもと、処置入力・物品の取り扱いができる。	①重症度、医療・看護必要度評価が正しく行える。 ②多重課題時、優先順位を考え実践することができる。 ③自部署に関連した診療報酬の項目を理解している。	①係・委員会活動を通して、所属部署のデータを把握できる。 ②重症度、医療・看護必要度評価が正しく行え、チームメンバーへ指導ができる。 ③自らタイムマネジメントができる。 ④自部署に関連した診療報酬の実施や記録について理解している。	①メンバーのタイムマネジメントを調整することができる。 ②自部署の必要な物品の管理ができる。 ③自部署に関連した診療報酬の実績を知っている。	①診療報酬のしくみを理解し、組織の収益向上のための対策を提案できる。 ②自部署のタイムマネジメントを支援することができる。 ③効率的な業務改善に向けて建設的に提言できる。	
	ストレスマネジメント	①心身ともに健康な状態で仕事に臨める。 ②ストレスを自覚して上司や先輩に相談できる。 ③メンタルヘルスに関する相談窓口を知っている。	①ストレスを自覚して上司や先輩に相談するなど自身で対処行動がとれる。 ②メンタルヘルスに関心を持ち研修に参加できる。	①職員の労務安全に関する問題に気づき、上司や先輩に相談することができる。 ②メンタルヘルスに関心を持ち、研修で得た知識を活かすことができる。	①職員の労務安全に関する問題に気づき、職場環境を整えるための建設的な意見が言える。 ②メンタルヘルスに関心を持ち、研修で得た知識を活かすことができる。	①職員のメンタルヘルス不調に気づき、適切な対応ができる。 ②メンタルヘルスケアの教育・情報提供が実施できる。	

【クリニカルリーダー】

看護の核となる実践能力	看護師	看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。	患者および家族に合った個性のある看護を自立して実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、患者および家族にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する。
	保健師	①指導のもと、健康問題を抱える担当患者やその家族の保健指導ができる。	①指導のもと、地域診断を行い健康管理に関する地域の特徴を捉えることができる。 ②健康問題を抱える個人や家族の日常的な保健指導ができる。	①健康問題の有無に関わらず対象となる個人への健康活動への働きかけができる。 ②指導の下、地域に向けたイベントで健康活動を促すことができる。 ③健康事業における他職種との役割を知ることができる。	①健康の有無に関わらず、対象となる集団の特性をふまえた健康活動への働きかけが、多職種と協働して行える。 ②地域連携機関への調整ができ退院支援活動のリーダーシップを担う。	①対象者の生活を前提とした多角的な分析から地域診断力を発揮し、チームの実践に関してリーダーシップを行う。 ②地域関連施設、地域の保健師と適切な連携体制を構築できる。
	訪問看護ST看護師	看護手順に従い必要に応じ助言を得ながら自立して看護を実践する。	利用者・家族に合った個性のある看護を主体的に実践する。	幅広い視野で予測的判断をもち主体的に看護を実践する。	複雑な状況において、利用者・家族にとっての最適な手段・資源を活用し看護を実践する。	より複雑な状況において、利用者・家族にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践し、マネジメントする。
	【レベル毎の目標】	□助言を得て患者のニーズをとらえる	□患者・家族の生活状況(場)のニーズを自らとらえる	□患者及び家族の状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	□患者および家族や生活状況(場)を統合ニーズをとらえる	□患者および家族や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	ニーズを捉える力	①助言を受けながら患者および家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ②患者および家族の生活状況から緊急度をとらえることができる。	①自立して患者及び家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 ②得られた情報をもとに、患者及び家族の全体像から課題をとらえることができる。	①患者及び家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個性を踏まえ必要な情報収集ができる。 ②得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる。	①幅広い視野と予測的な判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から患者および家族を支える多職種や専門職から必要な情報収集ができる。 ②意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる。	①患者及び家族を支える多職種や専門職から多様な状況やニーズの情報収集ができる。 ②患者および家族に地域で支える多職種の価値観に応じた判断ができる。
	【レベル毎の目標】	□助言を得ながら、安全な看護を実践する	□患者及び家族の状況(場)に応じた看護を実践する	□患者及び家族の状況(場)の特性を判断し看護を実践する	□専門的知識を活用し必要な技術を選択・応用し看護実践できる	□最新の情報や専門的な知識と社会情勢を踏まえた創造的な看護を実践する
	ケアする力	①指導を受けながら看護手順に沿ったケアを実施し評価できる。 ②指導を受けながら、患者および家族の基本的な援助ができる。 ③看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる。	①患者及び家族の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践し評価できる。 ②患者及び家族に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる。 ③患者及び家族に状況に応じ、適したケアを選択し援助ができる。	①患者及び家族の個性に合わせて、適切なケアを判断し実践、評価できる。 ②患者及び家族の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる。 ③患者及び家族の個性から予測される課題や問題をとらえ、看護実践に反映ができる。	①患者及び家族の多様なニーズに応えるため、専門分野の知識・技術のなかから最適な看護を実践し評価できる。 ②患者及び家族に今後起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践できる。	①患者及び家族の複雑なニーズに対応するために最新の知見や専門的な知識を取り入れたケアの実践・評価ができる。 ②複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる。 ③実践したケアをあらゆる知見に基づき評価し、追求できる。
	【レベル毎の目標】	□患者及び家族を取り巻く関係者と情報共有ができる	□看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	□患者及び家族やその関係者、多職種の役割を把握し連携ができる	□患者及び家族を取り巻く多職種の情報と活動を把握し連携できる	□患者及び家族の複雑なニーズに対応するため、多職種の情報を統合し協働できる。
	まわりと協働する力	①助言を受けながら患者および家族を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報をチームメンバーと共有することができる。 ②助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる。 ③助言を受けながら所属部署の関係者の多様な価値観を理解したうえで、ケアに必要と判断した情報収集することができる。 ④連絡・報告・相談ができる。	①患者及び家族を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる。 ②関係者と密にコミュニケーションを取ることができる。 ③看護の展開に必要な多職種を特定できる。 ④看護の方向性や多職種の状況を把握し、情報交換できる。	①患者及び家族の個別的なニーズに対応するために、その関係者の役割を把握し協力しながら多職種連携を進めていくことができる。 ②患者及び家族とケアについて意見交換できる。 ③積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる。	①患者及び家族がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を判断し協力し合うことができる。 ②カンファレンスにおいて多職種間の連携が促進されるようファシリテートすることができる。 ③患者に起こりうる課題を予測し、専門・認定看護師、多職種に提案し調整することができる。	①見えにくくなっている、患者および家族のニーズに適切に対応するため、必要な情報を自律的な判断のもと多職種から情報を得る。 ②多職種連携が十分に機能するよう、情報を統合しその調整的役割を担うことができる。 ③病院外での多職種との調整を図り連携ができる。 ④患者の目標を達成するために、自施設の機能を補完する資源に気づき、活用することができる。
	【レベル毎の目標】	□患者及び家族や、それに関わる人々の意向を知る	□患者及び家族や、それに関わる人々の意向を看護に活かすことができる	□患者及び家族や、それに関わる人々の意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	□患者及び家族や、それに関わる人々の意思決定に伴う不安やとまどいを共有でき、選択を尊重できる	□患者及び家族の複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
意思決定を支える力	①助言を受けながら患者及び家族や、それに関わる人々の思いや考え、希望を知ることができる。	①患者及び家族や、それに関わる人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。 ②確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる。	①患者及び家族やそれに関わる人々の意思決定に必要な情報を提供できる。 ②患者及び家族やそれに関わる人々のケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる。 ③患者及び家族や、それに関わる人々の意向の違いを多職種に代弁できる。	①患者及び家族やそれに関わる人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な意思決定支援が実践できる。	①適切な資源を積極的に活用し、患者及び家族や、それに関わる人々の意思決定プロセスを支援できる。 ②法のおよび文化的配慮など多方面から患者および家族やそれに関わる人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる。	

自己教育・研究能力	レベル毎の定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究的に取り組む、後輩のロールモデルとなることができる	単独で専門領域や高度な看護技術等について、自己の教育活動を展開することができる。主として研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる
	【レベル毎の目標】	<input type="checkbox"/> 必要な知識・技術を主体的に学習し、自己の学習課題を指導によって発見する <input type="checkbox"/> 看護実践に必要な文献検索ができる	<input type="checkbox"/> 日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得に向けた学習活動を展開する <input type="checkbox"/> 後輩と共に学習する <input type="checkbox"/> 研究的視点をもって、根拠に基づく看護実践に向けて取り組む	<input type="checkbox"/> 実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする <input type="checkbox"/> 組織の中で自己の立ち位置を確認し、中長期的な自身のキャリアを描き始める <input type="checkbox"/> 看護実践者として後輩に支援的役割を果たせる <input type="checkbox"/> 看護の質を向上するために研究結果を活用する	<input type="checkbox"/> 組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像が描ける <input type="checkbox"/> 専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組む <input type="checkbox"/> 後輩のロールモデルとなり学習を支援する <input type="checkbox"/> 課題解決や看護の質を向上するために研究的に取り組む	<input type="checkbox"/> 地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する <input type="checkbox"/> 専門領域や高度な看護技術等について自己の学習活動を推進し、他者を育成する中で成長する <input type="checkbox"/> 看護単位における教育的役割がとれる <input type="checkbox"/> 研究活動を実践する <input type="checkbox"/> 他者の研究活動を支援する
	倫理的実践能力 責任を果たすために求められる努力(7~11条)	<input type="checkbox"/> ①新人看護職員卒業後臨床研修をプログラムに沿って一年間で修了できる。 <input type="checkbox"/> ②ケーススタディで自身の体験した看護をまとめることができる。	<input type="checkbox"/> ①専門職として実践能力向上のための研修に自主的に参加できる。 <input type="checkbox"/> ②日々の看護実践に疑問点を見出し、倫理的視点で事例検討ができる。 <input type="checkbox"/> ③自己の看護実践をリフレクションしケースレポートとしてまとめ伝達することができる。	<input type="checkbox"/> ①専門職として実践能力向上のための研修に積極的に参加できる。 <input type="checkbox"/> ②部署・チーム・委員会等で行われる看護研究に参加することができる。 <input type="checkbox"/> ③自己のキャリアプランについて述べるができる。	<input type="checkbox"/> ①専門職として実践能力向上のための学習に積極的に取り組み、自己の提供する看護実践の課題を見つけることができる。 <input type="checkbox"/> ②問題解決能力向上のために学習したことを日々の看護実践に活かすことができる。 <input type="checkbox"/> ③積極的かつ継続的に院内外研修に参加することができる。 <input type="checkbox"/> ④自己の看護実践から研究テーマを発見し看護研究に取り組むことができる。(協働参加)	<input type="checkbox"/> ①専門職として身に付けた実践能力をもとに、自己の学習課題をレベルアップさせ、後輩のモデルとなる学習姿勢を見せる。 <input type="checkbox"/> ②役割における専門的知識、技術の向上のための学習を継続して行っている。 <input type="checkbox"/> ③主体的に、院内外の研修の企画・立案・参加・評価ができる。 <input type="checkbox"/> ④常に科学的視点を持って臨床に臨み、自身の研究テーマをもとに研究を行うことができる。
	自己研鑽の過程・統合化(キャリア開発への道のり)	自己の学習課題を指導によって発見する。必要な知識・技術を主体的に学習する。	日々の実践から生じる疑問点など、自身の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得にむけた学習活動を展開する。	実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする。組織の中で自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める。	組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像が描ける。専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組める。	地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する。専門領域や高度な看護技術等についての自己の学習活動を推進する。
教育内容	集合研修 ※受講した年月日を記載する事 ローテーション研修	キャリアパスの集合研修の欄参照 受講日もキャリアパスに記載する 2年目 ①倫理研修 (年 月 日) ②地域包括ケアⅡ 入退院支援研修 (年 月 日) 3年目 ①リフレクション研修 (年 月 日) ②救急研修(救急外来) (年 月 日) ③プリセプター準備研修 (年 月 日)	①プリセプター研修 (年 月 日) ②リーダーシップ研修 (年 月 日) ③地域包括ケア研修(多職種連携) (年 月 日)	①リーダーシップ研修(意思決定支援) (年 月 日) ②実習指導者研修 (年 月 日)	①副看護部長登用試験対策研修 (年 月 日) ②新任副看護部長研修 (年 月 日) ③新任看護部長研修 (年 月 日)	
	APN主催研修	社会のニーズに応じた研修会の企画 皮膚・排泄ケア 緩和ケア がん看護 がん性疼痛看護 がん化学療法 感染管理 集中ケア 摂食・嚥下障害看護 救急看護 糖尿病看護 認知症看護 脳卒中リハビリテーション看護				
	部署別研修	・基礎技術の習得	・日常ケアにある倫理について教育 ・リフレクションの支援 ・メンバーシップ教育	・プリセプターシップ教育 ・リーダーシップ教育 ・在宅療養支援	・リーダーシップ教育 ・臨地実習指導者教育	・チーム運営教育
	共通	看護研究 各部署の年間計画に準ずる (倫理・感染・医療安全・防災・接遇・救急・看護技術・専門分野)				
	院外研修	医療安全 感染対策 防災訓練 重症度、医療・看護必要度 看護協会主催研修、JCHO本部・地区主催研修、関西臨床倫理研究会等				